

29年前の4月、航空会社への就職のため沖縄にやってきた。一人前のキャビンアテンダント（CA）を目指し入社後は約3カ月間の厳しい訓練があった。あいさつや立ち居振る舞いの徹底、専門知識を学ぶ座学後、実際に航空機に乗務しながらの訓練。求められるレベルに到達しないと独り立ちできないので必死だった。頑張れたのはカッコいい、すてきな先輩がたくさんいたからだ。限られた時間と空間の中で優先順位をつけ対応する先輩方を見て、私もそこに近づきたい一心だった。

長女を妊娠中の18年前、育児と仕事の両立に悩む多くの女性に出会って、悶々とした日々を送っていた。そんな時に、「働き方」を社会課題として、組織向けに提案・解決に導く仕事をする方と出会った。「私も沖縄でやろう」と憧れ起業した。

航空会社で14年勤め、起業して14年。継続し成長していく中で、いつしか憧れを追うだけでなく、自身身の強みを掛け合わせて追求していくフェーズに移った。「憧れ×自分の強み」そして自分らしさを発揮しまた気づけば新たな憧れが増えていく。憧れの存在というのは、完璧な人ということではなく、「この人のこの部分は取り入れたい」というようにいろんな人の良い所を吸収するイメージに近い。それは伸び代のようで成長の糧になると思っている。

大谷翔平選手の「憧れるのをやめましょう」という言葉。これは、仲間を信じていたからこそ言えたのではないか。自分も含め仲間たちの積み重ねてきた努力を知り、互いの強みを最大限生かす「チーム」になった。だからこそ、「私たちらしく自信を持つて、いこう」ということを強調するために選んだ言葉なのではないか。この春に新入社員を迎えた方も多いかもしれない。私たちは、誰かの憧れの存在になれているだろうか。（株式会社Life is Love代表、組織開発コンサルタント）